

武雄市立武雄中学校学校便り

叶武



NO. 23 令和3年2月12日
〒843-0024
武雄市武雄町大字富岡11606番地
TEL 0954-22-4105
文責 校長 熊野辰未

学校教育目標 「高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成」

《熱い情熱と地道な努力を》

みなさんは、伊能忠敬という人を知っていますか。彼は、江戸時代、下総の佐原（現在の千葉県香取市）で事業家として成功し、49歳で隠居して店を息子に任せ、50歳で江戸に移り、測量や天文学・暦学の勉強を始めました。

その当時の平均寿命は、現在とは違い35歳から40歳ほどと言われています。そのような時代にあって、彼は、50歳から新たな学問の勉強を始め、蝦夷地（現北海道）から九州まで17年間をかけて日本中を実地測量し続け、日本全図の完成に向けて指揮をとりました。実は、1812年に武雄にも来て宿泊しています。全国測量は、隠居後の55歳から始まり71歳まで続けられましたが、地図の完成を見ることなく73歳で生涯を閉じています。その後、弟子たちによって「大日本沿海輿地全図」が完成しますが、日本の歴史上初めて科学的な測量を全国にわたって組織的にを行い、日本全土の地図を作成した人物です。

彼は、江戸の隠宅に本格的な天文観測施設を整備し、恒星の高度角の観測など天文観測に明け暮れました。本格的に天文学を学ぼううちに、地球の大きさを知りたいと思うようになり、子午線1度の長さを求めるために蝦夷地（北海道）まで赴いて江戸との距離を測る必要に迫られ、蝦夷地の測量を始めることになりました。1800年に行われた蝦夷地測量終了後、これが幕府より評価され翌年には東北地方東海岸の測量を行うことになりました。それまでの測量により子午線1度の長さが求められ、28.2里（110.75 km）を得ました。当時最先端の天文書「ラランデ暦書」における数値とほぼ一致しました。幕末にアメリカ合衆国のペリー提督が開国を迫って日本にやってきたときに、「日本地図」を見てあまりの精密さに驚いたとも伝えられています。また、出島に滞在していた医師、シーボルトが国外に持ち出そうとした事件（実は写しを持ち出している）になったり、明治時代以降の地図作成にも使われたりしました。

73歳でこの世を去るまでに大きな偉業を成し遂げた伊能忠敬は、**熱い情熱と地道な努力**の大切さを私たちに示してくれています。

現在の日本は、少子高齢化が進み、大きな社会問題となっています。自動運転の車の開発や工場やホテルなどにもロボットが導入され、人間の仕事を担う時代になっています。2030年には、多くの仕事が人工知能やロボットに代替されると言われています。今の気持ちや置かれている環境だけで判断することなく、将来を見据えて伊能忠敬のように**熱い情熱と地道な努力**を積み重ねていくことが大切ではないでしょうか。